

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500513
法人名	有限会社 ウェルフェア
事業所名	グループホーム かがやき
所在地	宮崎市佐土原町下田島12372番地
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 9 日 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571500513&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の医療施設の協力の元に、医療的にも入所者のケアがしっかりできる施設であり、ターミナルもご家族の協力を得て行え、社会貢献が出来る事を目的とする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は「個人を尊重し、その人らしい暮らしぶりの応援・毎日の生活がいいききと楽しめるように」と理念に掲げて職員会議や勉強会の中で理念を共有し日々のケアに取り組んでいる。プラン通りの支援がされているか、毎日のモニタリングで確認できるように書式を工夫して実践している。また、母体医療機関の医師や、看護師との連携を取り、ターミナルケアにも積極的な取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念はミーティング時、職員に説明し周知を行っている。	『利用者の一人ひとりを尊重しその人らしい暮らしが出来るように』と理念に掲げて、管理者と職員は会議やミーティングの中で話し合い理念の実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどを通して交流を行っている。	事業所の夏祭りに回覧板やチラシにて近隣住民に参加を呼びかけ、利用者や家族、事業所の職員が地域住民と交流している。また、地域のボランティアが来訪してくれるなどの交流が行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回行うミーティングで話し合いをしているが、なかなか実践ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてグループホームの状況を報告してもらいながら、サービス向上に取り組んでいる	2か月に1回開催し、議事録に残している。メンバーは母体病院の院長、職員、ホーム側の管理者と職員が参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。	地域の民生委員や消防団員などの有識者に参加を呼びかけ、さらなるサービスの質向上に努めてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状では、運営推進会議以外に行き来する機会が少ない状態である。	市町村の主催する会議や研修会の参加等は積極的に行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体に身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束のないサービスの提供出来るだけ行っている。	管理者と職員は身体拘束の弊害について定期的に勉強会を行い身体拘束のないケアに取り組んでいる。安全面から、家族の同意を得て階段前の1か所に鍵をかけている。	安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らし支援するために鍵をかけないケアの工夫を重ねてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設は2階にある為、階段からの転落、骨折等が予想されるため家族の了承を得たうえで鍵をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で職員の周知をはかっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明を文書に沿って行い、疑問点に関してはそのつど尋ねながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は施設内の見やすい所に掲示している。また職員が利用者に対して現在の生活に不満や不安が無いかなを尋ねている。	家族が意見や意向を気軽に言えるように、面会時の家族とのコミニケーションを大切にしている。家族の意見や意向について運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行うミーティングで話し合いをして意見を反映できるように取り組んでいる。	管理者は、毎月1回全体ミーティングの中で話し合い、できるだけ職員の意見や意向を聞いて運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週1回の全体ミーティングを通して施設方針の統一、指示を行い向上心の啓発に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の中で常に指導者がアドバイスしながら新しい職員の教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間の行事予定にも外出を設けながら、定期的に外出が出来る様に支援している。ボランティアの方たちと交流の機会、行事への家族の多数参加など機会を沢山計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者についてケアを行う際に本人から今の生活について不安や不満が無いかを聞き、それを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問された時や物品の連絡等の機会をとらえ介護の相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのみでなく、関連施設等の紹介も行い安心してサービスを利用出来る様に支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として利用者一人一人に出来るだけ何か役割を持ってもらいながらお互い様という協力関係を気づいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にオムツ等の持込や、病院受診の付き添いを依頼しながら、利用者に出るだけ関わる時間を作ってもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人、知人等の面会が出来る様に家族に協力してもらっている。	利用者がこれまでに培ってきた人々との関係を断ち切らないように、家族の協力を得ながら面会に来ていただき、お茶を飲みながら楽しい時間が過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互い協力しながら出来ないところを助け合える関係が作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、御家族の意向もあり頻回に連絡等は取っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランやアセスメントを通し本人の希望・思いが充分理解できるよう利用者自身の立場に立って考慮している。	利用者の思いが日々のケアの中で、職員が肌で感じとることがあり、家族の面会を依頼したり、望みを叶えてあげられるように本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族・本人に聞き取りをしながら利用者が得意にしていた事、趣味等を把握して孤立しないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子等を観察して本人の状態を細かく把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への利用者に関する聞き取り、職員にもアセスメントをとってもらいながら、それらを総合したプランをさくせいしている	利用者本意の介護計画を家族と一緒に皆で考えて作成している。プランに沿ったケアが実践されているかを、書式を工夫し、日々モニタリングを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミニカンファレンス等では職員のきずき等はたくさんでるが記録として残していけるようにしたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランの説明等を行う際に利用者・家族に要望を聞きながらケアプランに反映させるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については、利用者からの要望がなく具体的にどの機関との協力というような体制は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設の為、必要に応じ適切な医療が受けられる体制である。	利用者がこれまでに大切にしてきたかかりつけ医との関係は断ち切らないように支援し、暮らしぶりなどの情報を提供するなど適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員の中に看護師もいるので、日々の健康管理はできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院等に関しては状態の確認、退院の相談など密に連携を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在もターミナルは行っており、併設の病院の医師と連絡を密に取り利用者の状態に柔軟に対応できる状況である	利用者の状態に合わせてターミナル期が予測される時期に家族と話し合いを持ち、家族の意向に添ったターミナル期の支援を母体の医師、看護師と連携し方針を共有しながら行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に併設の病院の医師の指示で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い職員、利用者には防災意識をつけてもらうように努めている。	マニュアルを作成し、年2回の防災避難訓練(夜間想定を含む)を定期的に行なっている。食料品や飲料水の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無断で記録、情報等の持ち出しは行わないなど利用者のプライバシーの保護に配慮している	利用者一人ひとりに対して人格を尊重し、やさしい言葉かけをしている。人目につかないように配慮した排泄ケアがされている。記録物は人目につかない事務所の中に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が業務優先にならない様に出来る限り利用者の生活のペースにあわせている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように出来る限り利用者の生活のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら利用者が馴染みのある美容室、または身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態をみながら食事の手伝い等の協力を得ている。	利用者の身体機能に応じて材料切りや台拭き、後片付けなどの手伝いをしてもらっている。管理栄養士の立てた献立でバランスの取れた食欲をそそる美味しい食事の提供がされている。職員は自前の弁当を食べている。	利用者と職員と一緒に同じテーブルで同じ食事が出来ないか検討してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事等はどれくらい摂取できたかチェック表を作成して職員が確認し摂取量が減らないように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内のケアを実地している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを職員で話し合い、自立に向けた支援を行っている。	排泄のサインを見逃さないように適切な個別誘導を行いトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等だけに頼らず水分を多く取ってもらい良好な排泄の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を利用者ごとに決めているが希望があれば、入浴日以外でも出来る体制をとっている。	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように利用者本意に支援している。希望があればいつでも入浴可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションへの声かけを行い、出来るだけ活動してもらい、夜間は安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等を参考にしながら、服薬の忘れ等や誤薬等のない様子を見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの趣味、希望に合わせた役割や嗜好品の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等は職員が付き添い対応している。	ホームの庭や近隣の散歩は日常的に職員が付き添って行っている。花の時期には近隣の公園まで家族の協力のもとに車で出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理のできるいない為、行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙を書いたり、電話ができるように家族にも了承を得ながら提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室も張り紙などで分かりやすくしており、居室も好みの絵などを貼って本人が自室と確認しやすくしている。	リビングは採光や風通しもよく利用者に馴染みやすい和風の空間で、テレビや観葉植物が要所に置かれ、くつろぎやすい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にテラス、中庭など一人でいられる空間があり、いつでも利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族にご本人の馴染みの物を出るだけ多く持ってきてもらうようお願いし協力してもらっている。	家族の協力のもとに利用者の馴染みの家具や調度品、家族の写真などが飾られて居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝の歩行訓練がしやすいように施設の廊下は障害物のない様に整備し日々訓練を行っている。また、各居室にベランダがあり利用者本人が洗濯物を干されることもある。		